

第 4 章

育児休業制度等の利用状況

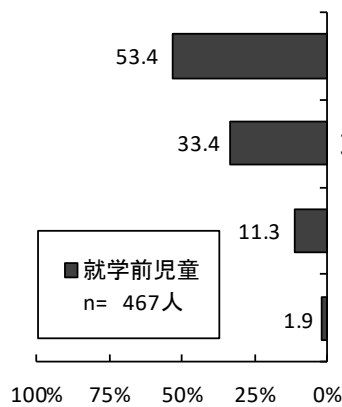
第4章 育児休業制度等の利用状況

育児休業制度の利用状況をみると、母親は「取得した（取得中である）」（43.5%）、「働いていなかった」（41.6%）となっており、前回調査と比較すると、「働いていなかった」は減少し、「取得した（取得中である）」が増加しています。

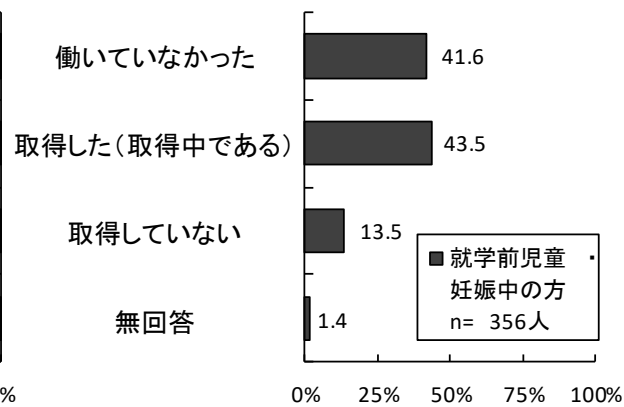
父親は「取得していない」が89.3%となっており、「取得した（取得中である）」は微増しています。

問 29 育児休業制度の利用状況【経年比較】

（母親）

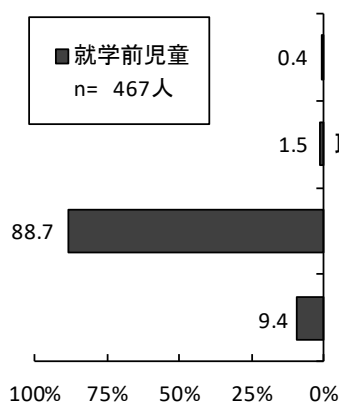


平成25年度

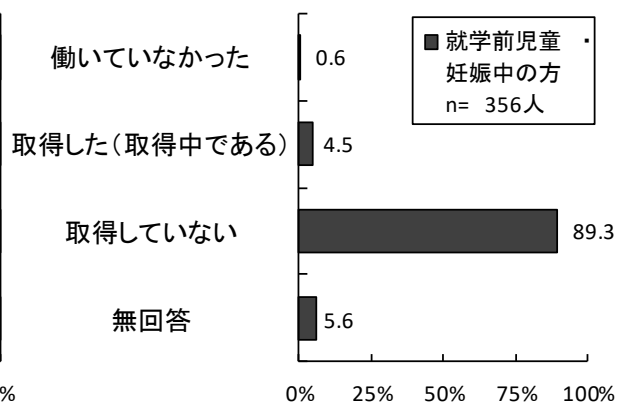


平成30年度

（父親）



平成25年度



平成30年度

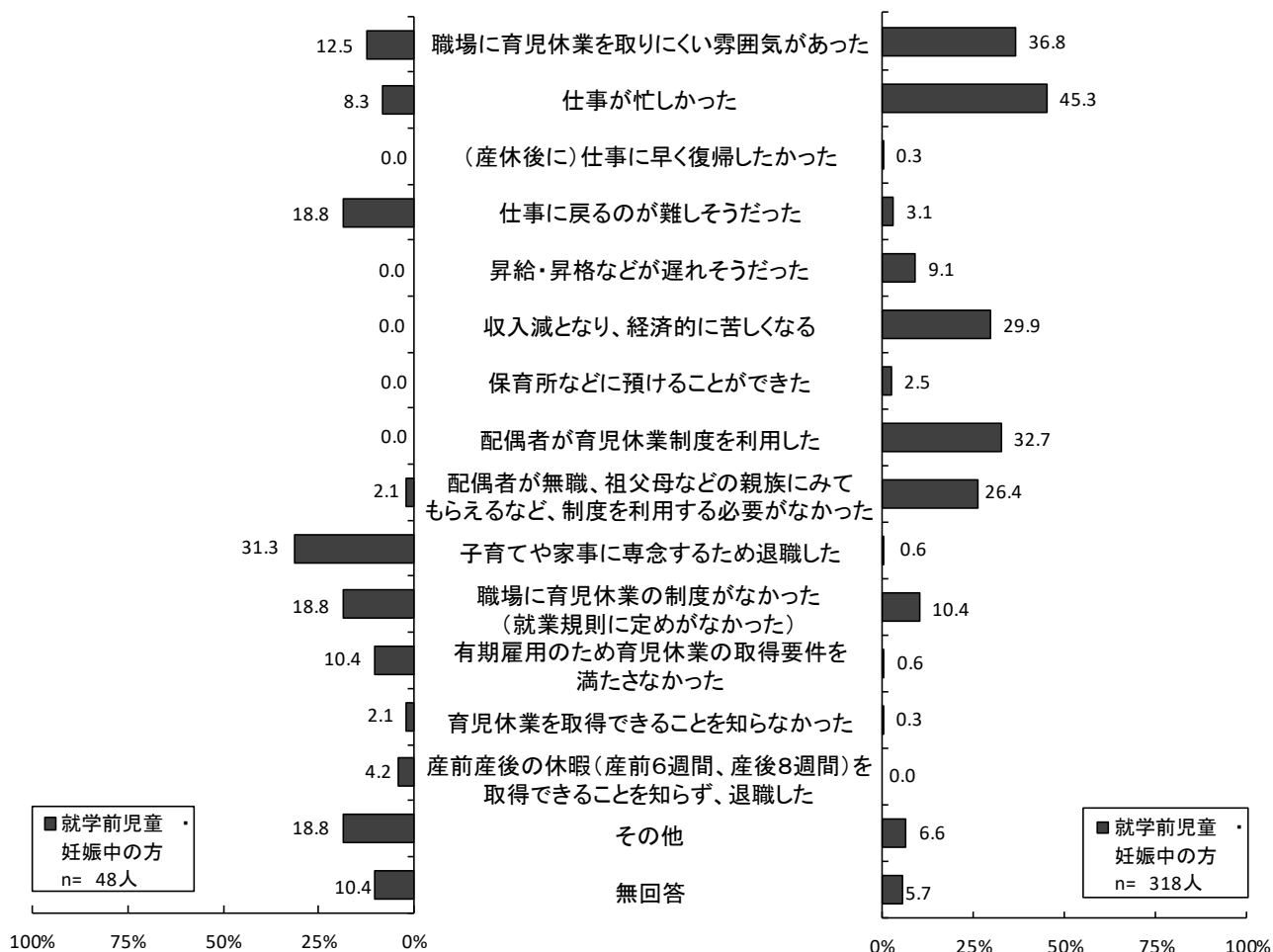
育児休業を利用しない理由について、母親は「子育てや家事に専念するため退職した」(31.3%)、「仕事に戻るのが難しそうだった」「職場に育児休業の制度がなかった」(各 18.8%) となっています。

父親は、「仕事が忙しかった」(45.3%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(36.8%)、「配偶者が育児休業制度を利用した」(32.7%) となっています。

問 29.3 育児休業を利用しない理由

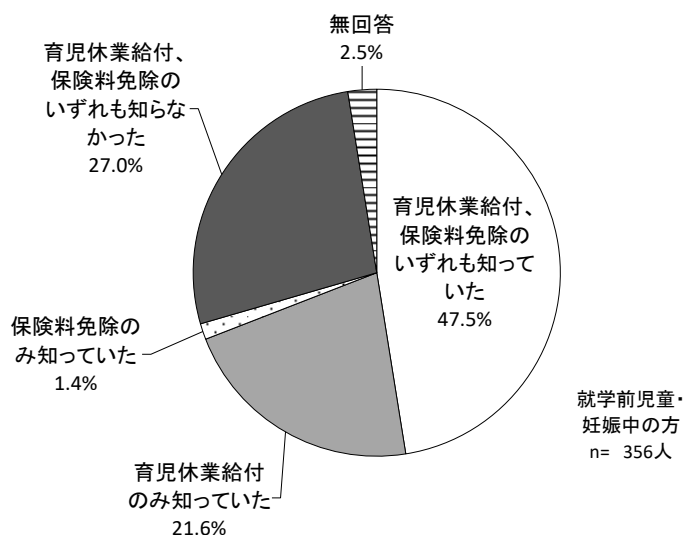
(母親)

(父親)



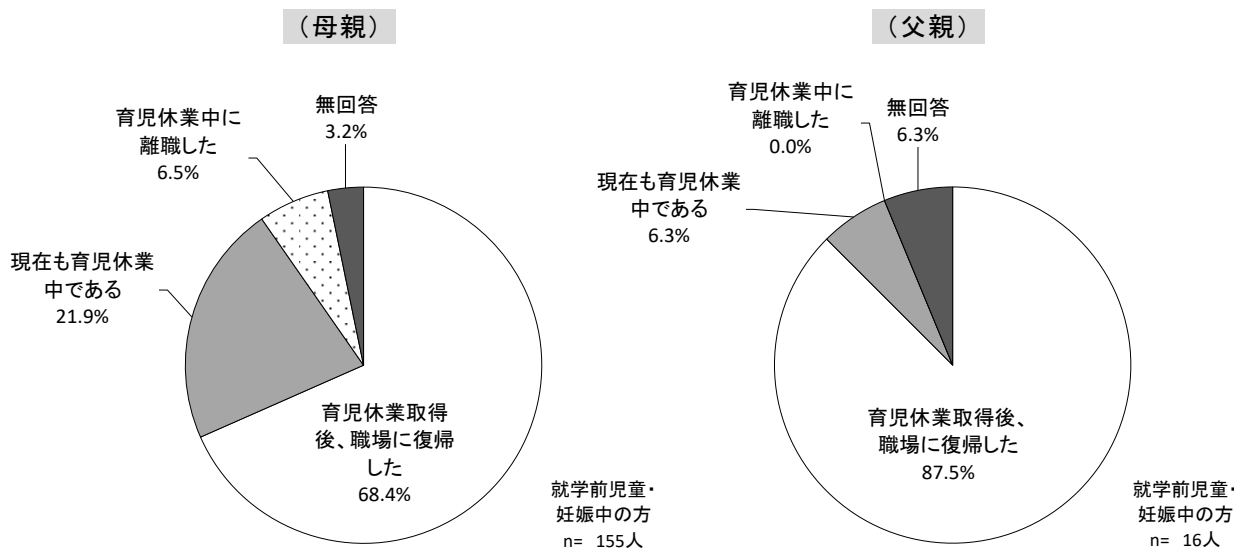
育児休業給付と社会保険料免除の仕組みの認知状況をみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」（47.5%）、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」（27.0%）、「育児休業給付のみ知っていた」（21.6%）となっています。

問 29-1 育児休業給付の支給と健康保険・厚生年金保険料免除の仕組みを知っている



育児休業取得後の対処をみると、母親は「育児休業取得後、職場に復帰した」（68.4%）、「現在も育児休業中である」（21.9%）、「育児休業中に離職した」（6.5%）となっています。父親は、「育児休業取得後、職場に復帰した」（87.5%）となっています。

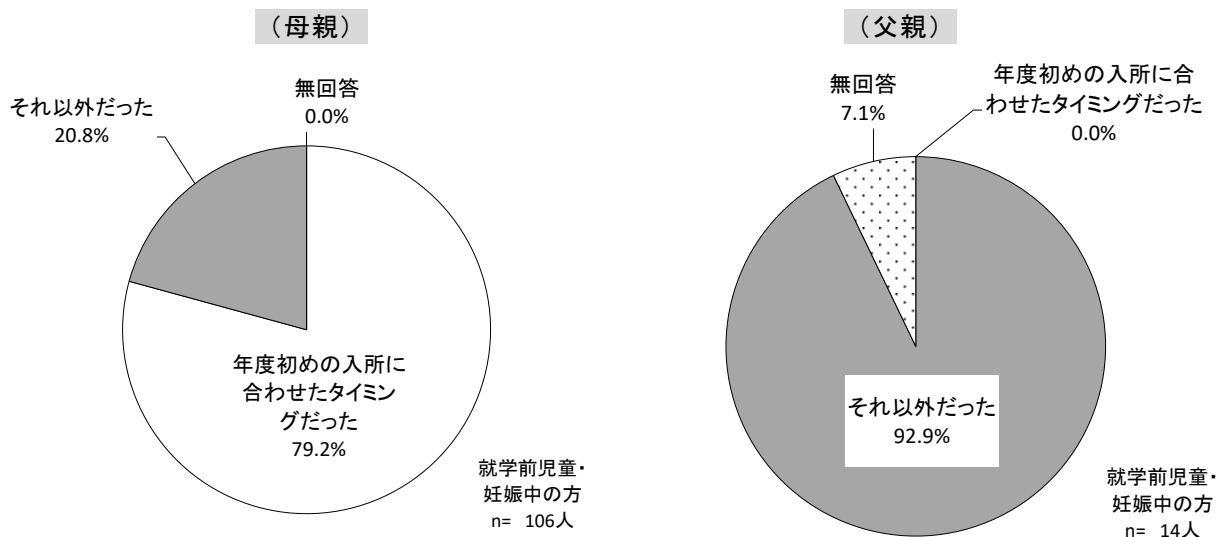
問 29-2 育児休業後の対処



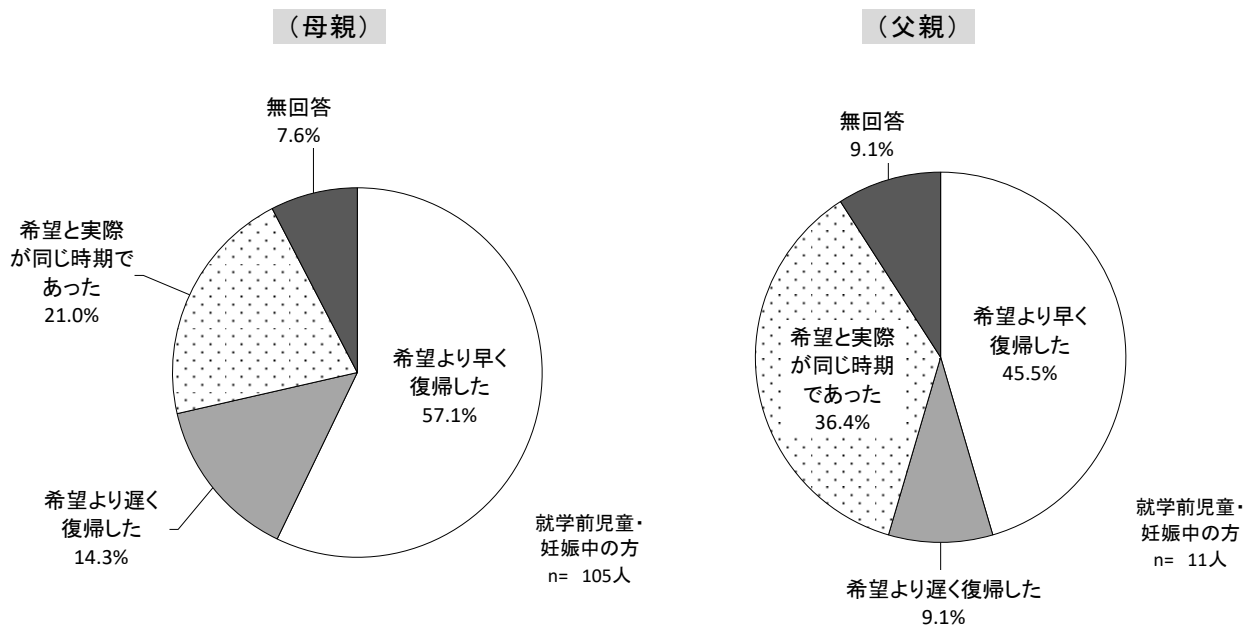
育児休業取得後に職場へ復帰した時期をみると、母親は「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」(79.2%)、「それ以外だった」(20.8%)、父親は「それ以外だった」(92.9%) となっています。

実際の育児休業からの職場復帰時期と、希望していた復帰時期との差をみると、母親、父親ともに「希望より早く復帰した」(57.1%) (45.5%) が最も多くなっています。

問 29-3 育児休業後に職場へ復帰した時期



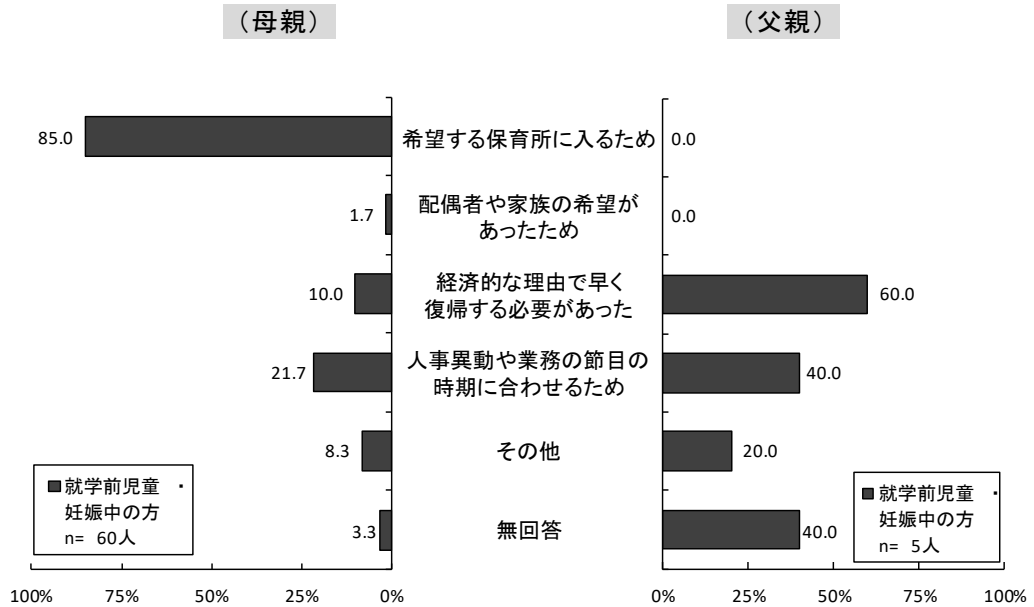
問 29-4 実際の育児休業からの職場復帰時期と、希望していた復帰時期との差



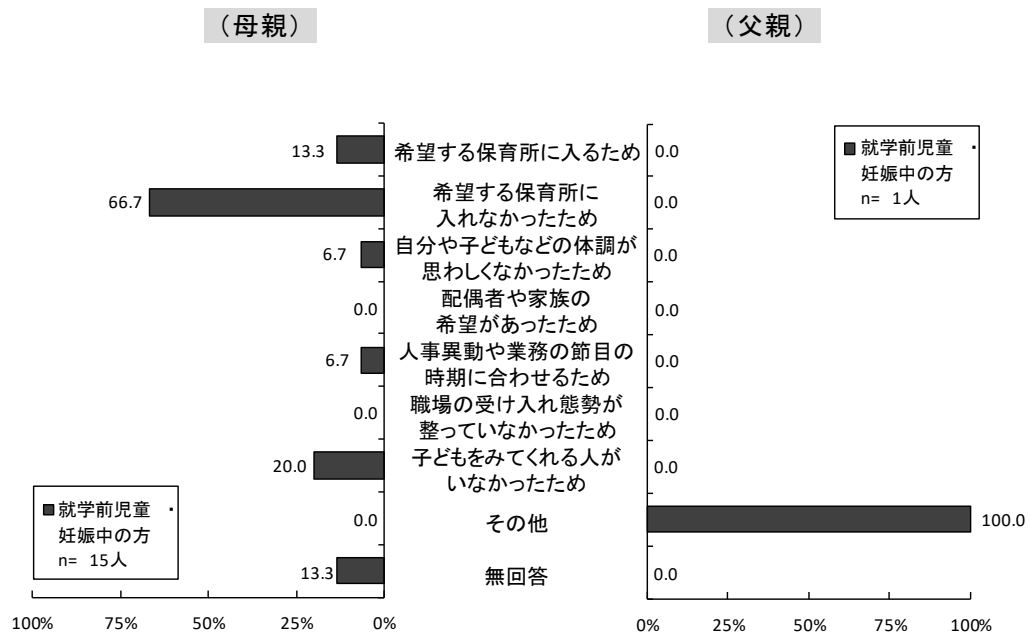
育児休業から「希望より早く」職場復帰した理由をみると、母親は「希望する保育所に入るため」(85.0%)が最も多くなっています。

育児休業から「希望より遅く」職場復帰した理由をみると、母親は「希望する保育所に入れなかったため」(66.7%)が最も多くなっています。

問 29-5(1) 育児休業から「希望より早く」職場復帰した理由

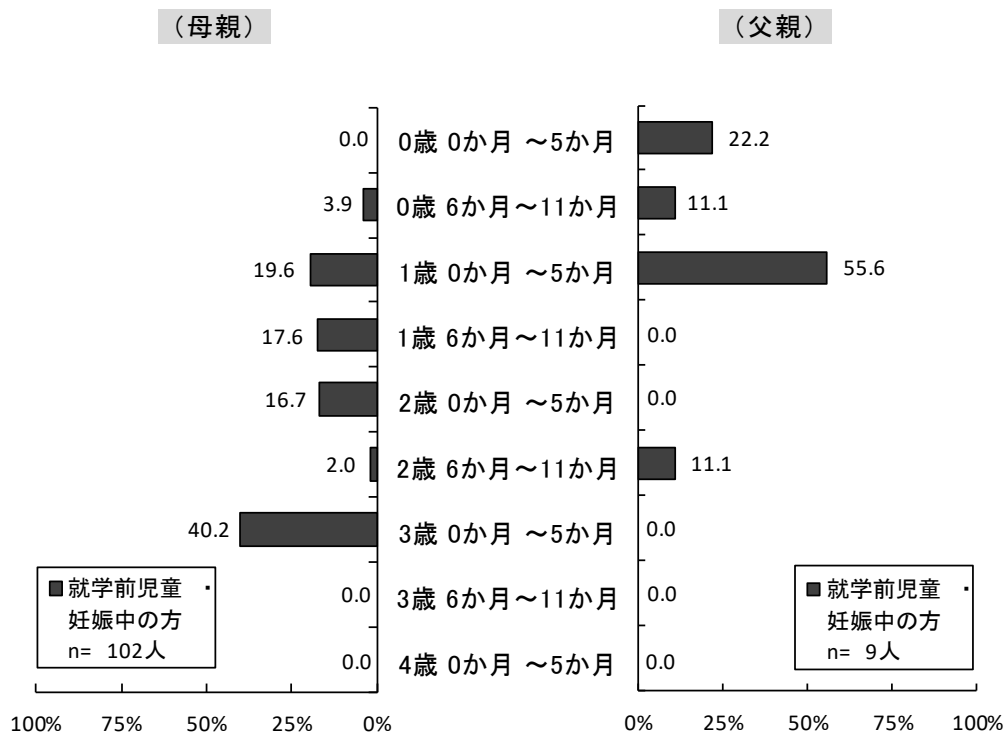


問 29-5(2) 育児休業から「希望より遅く」職場復帰した理由



3歳までの育児休業制度があった場合の育児休業取得の子どもの希望年齢について、母親は「3歳0か月～5か月」(40.2%)、父親は「1歳0か月～5か月」(55.6%)となっています。

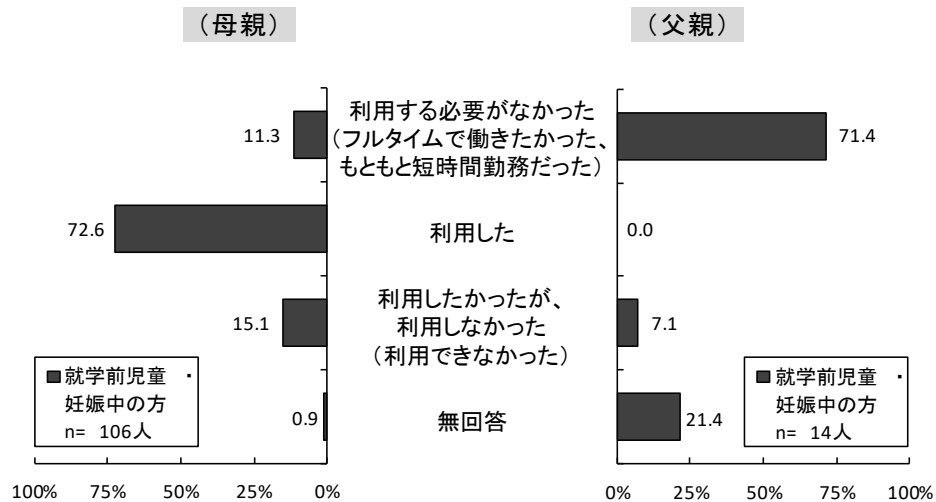
問 29-6 3歳までの育児休業があった場合の子どもの希望年齢



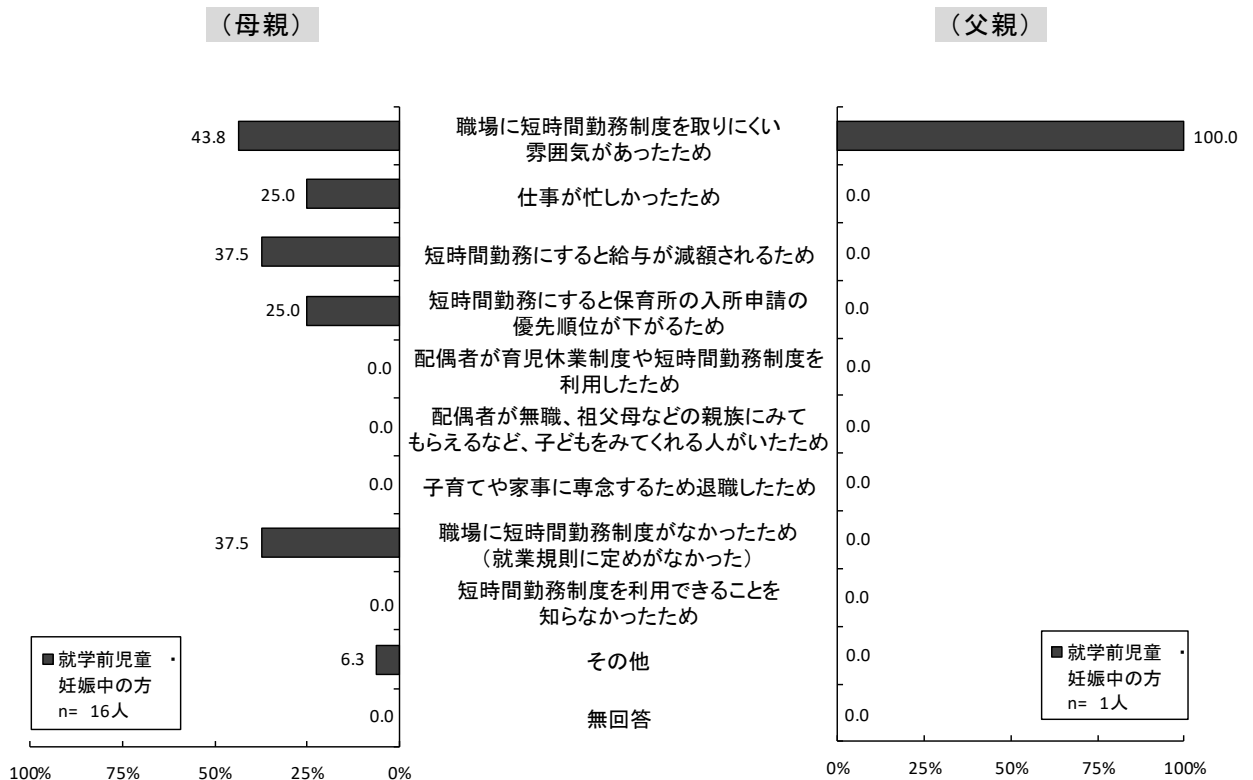
職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況をみると、「利用した」は、母親 72.6%、父親 0.0%となっています。

職場復帰時に短時間勤務制度を利用しない理由をみると、父親、母親ともに「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があったため」（母親 43.8%・父親 100.0%）が最も多くなっています。

問 29-7 職場復帰時における短時間勤務制度の利用状況



問 29-8 職場復帰時に短時間勤務制度を利用しない理由



1歳になったときに必ず子どもを預けられる事業がある場合の育児休業取得の希望をみると、母親は「1歳になるまで育児休業を取得したい」(88.2%)となっています。

問 29-9 1歳になったときに必ず子どもを預けられる事業があった場合の育児休業取得の希望

